

令和2年度浜松市社会福祉審議会

第1回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和2年6月26日（金）午後3時00分から午後4時10分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第5委員会室
- 3 出席状況 委員（10名）
 石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）
 渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会 副会長 女性部浜北地区代表）
 鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）
 小栗 康義（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）
 鈴木 幸子（浜松市民生委員児童委員協議会 理事）
 小杉山 敬（浜松市社会福祉施設協議会 理事）
 藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会 理事）
 松本 礼子（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部役員）
 酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）
 平野 岳子（浜松市議会）
- 事務局（15名）
 健康福祉部 山下部長
 高齢者福祉課 渡辺次長兼課長 鈴木担当課長 亀田課長補佐
 鈴木G長 門屋G長 山根G長 坂本G長 宮崎 高橋
 健康医療課 島次長兼課長
 介護保険課 徳田課長、大村課長補佐
 健康増進課 小山課長、平野副参事兼課長補佐
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プランの令和元年度事業実績について
 (2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について（次回継続協議）
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録 録音の有無 有・無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 健康福祉部長挨拶
- 3 新任委員の紹介
事務局から石川恵一委員、松本礼子委員、平野岳子委員を紹介
- 4 会長挨拶
- 5 議事

(小杉山会長)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

(1) はままつ友愛の高齢者プランの令和元年度事業実績について

(小杉山会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プランの令和元年度事業実績について、事務局から説明願いたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(意見なし)

(2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について (次回継続協議)

(小杉山会長)

(2)の次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について、事務局から説明願いたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(意見なし)

(小杉山会長)

議事は以上だが、プランの作成にあたり、それぞれの立場でご意見をいただきたい。

(小栗委員)

プランの骨子について、事務局としての方向性があれば事前に示してほしい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

現在のプランをベースに国や県の指針を取り入れて修正していく。

(鈴木雅教委員)

地域住民の支え合い活動に参加したくないという人が多く、近隣住民の交流も減っていること、また、今後、介護サービス利用料の増加が見込まれることについて不安を感じている。

(渥美委員)

新型コロナウイルスの影響でシニアクラブの活動が中止になり、事態終息後も以前のように参加者が集まるか心配だ。会員数の減少をくいとめるためにも、新しいコミュニケーション方法を模索している。

(石川委員)

支え合い活動で利用したいサービスについて、雄踏地区でアンケート調査を実施したところ、草取りや家具の移動等の力仕事を希望する声が多かった。サービスと実態に矛盾があるようだ。

(酒井委員)

天竜と街中では状況が異なり、支え合い活動に参加したくないのではなく、参加できないということもあるのでは。

認知症サポーター養成講座受講後、具体的な活動につながるような新しい仕組みづくりが必要だと思う。

(鈴木幸子委員)

新型コロナウイルスの影響で民生委員の活動も自粛されたが、窓越しにコミュニケーションをとったり、パンフレットを配布したり、会議の方法を工夫したりして活動している。高齢者は意外と元気で、ひとりひとりが自らの行動に気を付けている様子がうかがえる。災害以外の非常事態への対応方法を考えるいい機会になったと思う。

(藤島委員)

予防サービスのメニューを少し整理してもいいのでは。

新型コロナウイルスの影響でみんなが用心深くなり他の感染症や骨折、救急車の出動数等が減った。必要以上に怖がる方もおり、適切な情報の周知や啓発が大切だと感じる。

(松本委員)

「まちの保健室」という事業で高齢者の健康相談を実施しているが、相談者数は減少傾向にある。新型コロナウイルスの影響で受診を控える方もおり、不安だ。健康や医療の観点からどのようなことができるのか考えていきたい。

免許の返納について、返納後に公共交通機関を使えない場合は、生活範囲が狭まる。自家用車に頼らないということについて考えていく必要がある。

オンライン診療を実施している病院もあるが、患者側の環境を整えるための支援も考えなければならない。

(平野委員)

認知症サポーター養成講座について、今後は知識の習得だけでなく地域への還元につながるような新しい仕組みづくりが必要だと思う。高齢者にとって対面でのふれあいや声かけはとても大事なことで、新しい生活様式のなかで変わってしまうのが心配だ。信頼が築かれているからこそ画面越しのコミュニケーションが可能なのであり、高齢者にとってのデジタルをどのように推進していくかということもプランに反映させてほしい。

(小杉山会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。

以上で議事を終了する。

6 連絡事項

7 閉会